

# 平成28年度総括版

## 自転車利用実態定点調査報告(A地点)

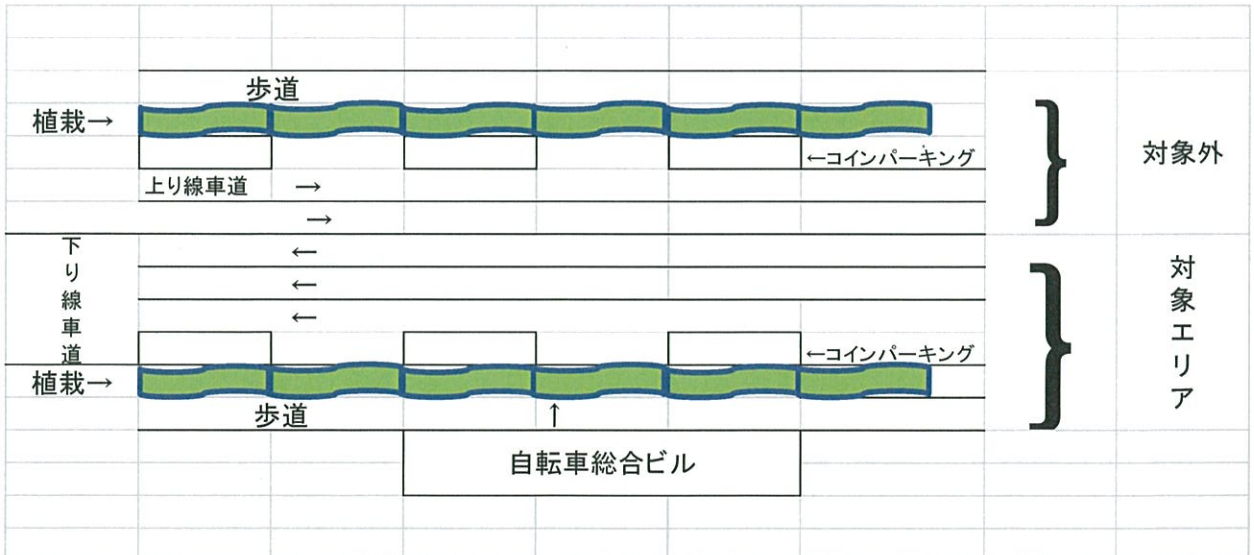
平成29年5月

(一財)日本自転車普及協会

**調査目的** 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

**調査日時** 平成28年4月～平成29年3月  
 [午前]9:00～10:00、[午後] 14:00～15:00

- 調査場所**
- ・ 自転車総合ビル前（目黒駅方面に50m程緩い下り坂）
  - ・ 調査対象(車道線:目黒通り下り3車線[内側1車線駐車帯]  
 (歩道:幅員5m・植栽1.5m～2mのため、実質通行幅3m～3.5m)
  - ・ 調査対象外(車道線:目黒通り上り2車線[内側1車線駐車帯]及び上り歩道)



**調査事項** 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間			乗車	乗次	危険運転行為				
	歩道	車道	歩道			歩道	車道	歩道	車道	歩道
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										

調査日時：平成 年 月 日 時 分

調査場所： ～

＜調査票＞

【総括】

平成 28 年度の総括として、以下の項目について、報告します。

◎走行空間においては、車道左側走行率は、19～25%にわたるが、平均(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月分の 12 ヶ月間)すると 22%程度である。

全般に歩道を通行する自転車が多く、全体の 7 割強を占めている。

同一地点(個別データ)においても、午前と午後で異なったデータとなっている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)の総数は、5945 件で、内訳は、肩に荷物(1865 件)・ハンドルに荷物(1108 件)・片手運転(728 件/内 109 件は、携帯電話を使用しながらの運転)・立ち漕ぎ(501 件)・車道右側(480 件)・過積載(312 件)・子乗せ後部席に荷物(\*1)(301 件)・歩道上でのスピードの出しすぎ(274 件)・脇見運転(171 件)・ジグザグ運転(97 件)・並列運転(40 件)・車道中央(22 件)等の順となっている。

\*1 子乗せ後部席に荷物を掛ける事は、もし、気が付かない間に落下して、歩行者や自転車等に迷惑(通行障害・事故起因等)を及ぼしかねないので、基本、止めた方が望ましい。

なお、肩に荷物・ハンドルに荷物の上位2項目だけで、全体(5945件)の5割を占めている。(危険防止の観点から籠の装備や荷台に装着等の必要性がある)  
片手運転や立ち漕ぎなども多いため、転倒や事故防止等の観点から、慎むべき項目である。

また、利用者全体(12960名)における危険運転行為等(違反行為を含み5945件)の比率は、42%(\*2)となっている。

\*2 実際は、1名で複数の危険運転行為等を実施している件(492件)も含まれるため

- ・利用者別 午前と午後の比較では、午前中は、通勤・通学の送迎等の用務の関係で、午前の利用者が多かった。
- ・車道左側走行率 調査期間中では、4月(24.9%)が最高で5月(19.4%)が最低であり、平均値は、21.5%であった。  
上記以外は、8月(23.3%)・6月(22.8%)・11月(22.3%)・7月(21.9%)・1月(21.6%)・3月(21.3%)・10月(20.9%)・2月(20.6%)・9月(20.4%)・12月(20.1%)である。  
期間中の午前の部では、4月(25.1%)が最高で5月(18.4%)が最低であり、平均値は、20.8%であった。  
上記以外は、8月(23.7%)・6月(22.5%)・11月(21.1%)・7月(21.0%)・1月(20.8%)・3月(20.3%)・2月(20.1%)・10月(19.9%)・9月(19.5%)・12月(18.9%)である。  
また、期間中の午後の部では、4月(24.7%)が最高で5月(20.6%)が最低であり、平均値は、22.3%であった。  
上記以外は、11月(23.3%)・7月(23.1%)・6月(23.0%)・8月(22.8%)・1月及び3月(22.4%)・10月(22.0%)・12月(21.7%)・9月(21.5%)・2月(21.2%)である。
- ・子乗せ自転車 調査期間中では、11月(30.2%)が最高で、8月(18.6%)が最低であり、平均値は、24.6%であった。  
上記以外は、10月(28.8%)・1月(27.2%)・2月(26.5%)・3月(26.2%)・9月(24.9%)・12月(24.6%)・5月(23.1%)・7月(21.5%)・6月(21.2%)・4月(19.5%)で

ある。

季節的に秋季が多く、夏季が、少ない。

一因として、就学期間が関係していると考えられる。

なお、同自転車における同乗者あり(平均 28.6%)の場合でのヘルメット着用率(\*1)については、12 月及び 1 月(77.2%)が最高で、11 月(71.4%)が最低であり、平均値は、75.1%であった。

上記以外は、9 月(77.0%)・10 月(75.9%)・3 月(75.0%)・2 月(73.9%)である。

\*1 なお、本調査については、平成 28 年 9 月より実施した。

#### ・電動自転車

調査期間中では、1 月(43.8%)が最高で、8 月(33.3%)が最低であり、平均値は、39.3%であった。

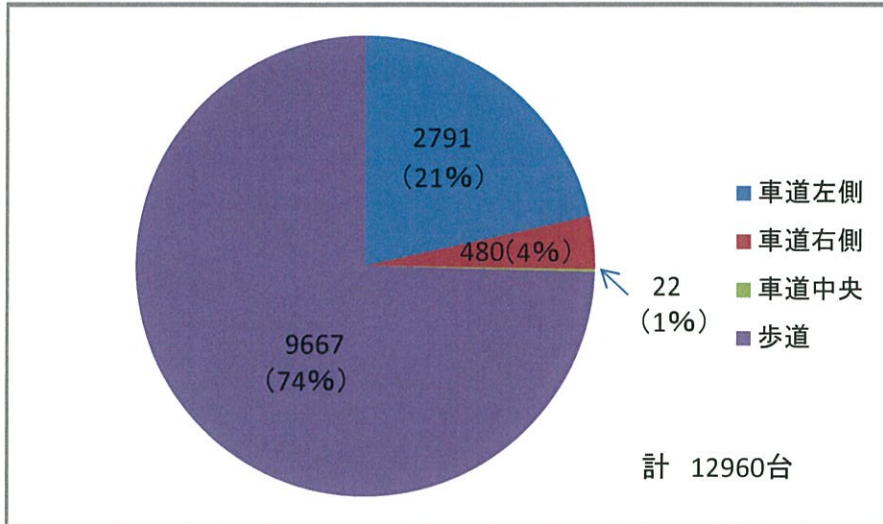
上記以外は、11 月(43.2%)・12 月及び 3 月(41.4%)・2 月(41.3%)・9 月(40.0%)・10 月(39.2%)・5 月(37.7%)・7 月(37.6%)・4 月(37.4%)・6 月(34.9%)である。

季節的に秋冬季が多く、夏季が、少ない。

一因として、自転車の利用しやすさ等が関係していると考えられる。

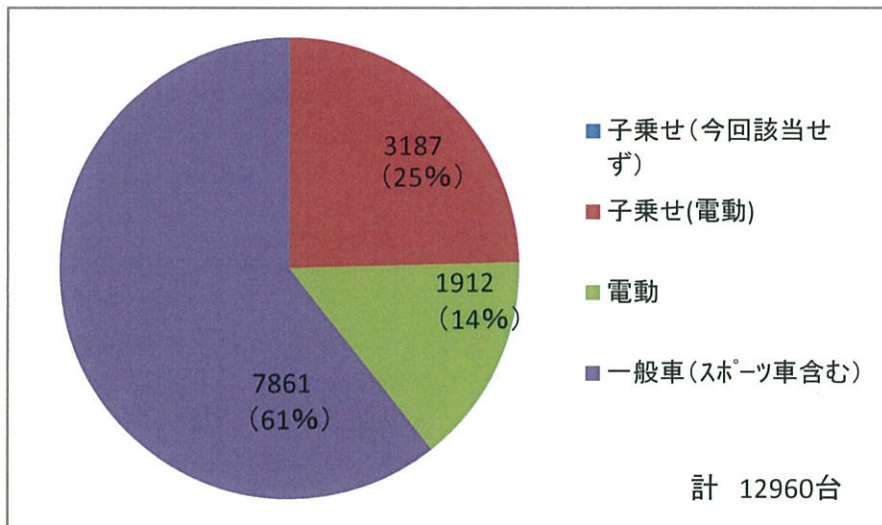
雨天時での調査は、トータル 31 日間で、調査対象総数 226 人中、合羽着用者は、186 人(82%)であり、傘さし運転者は、40 人(18%)であった。

全般的に、雨天時においては、合羽を着用する傾向が高く、自転車ルール・マナーへの意識の高さが、窺える。



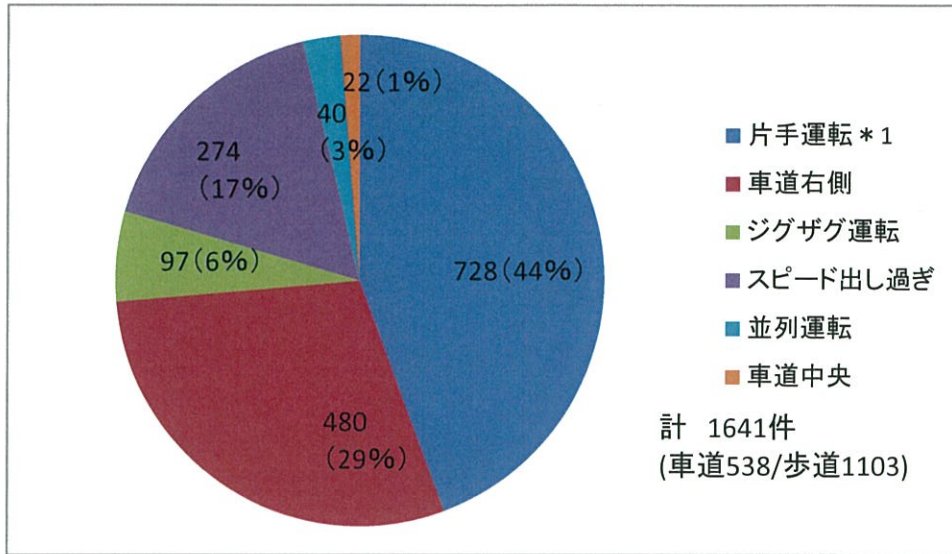
走行空間

調査期間 28年4月～29年3月



車種

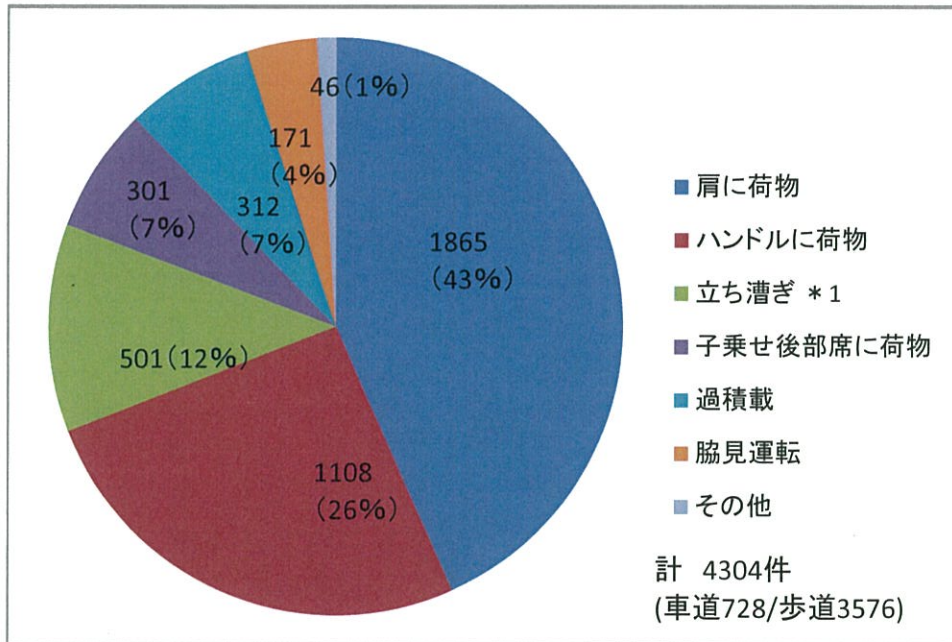
調査期間 28年4月～29年3月



違反運転行為

調査期間 28年4月～29年3月

\* 1 内109件 携帯電話を使用中の運転

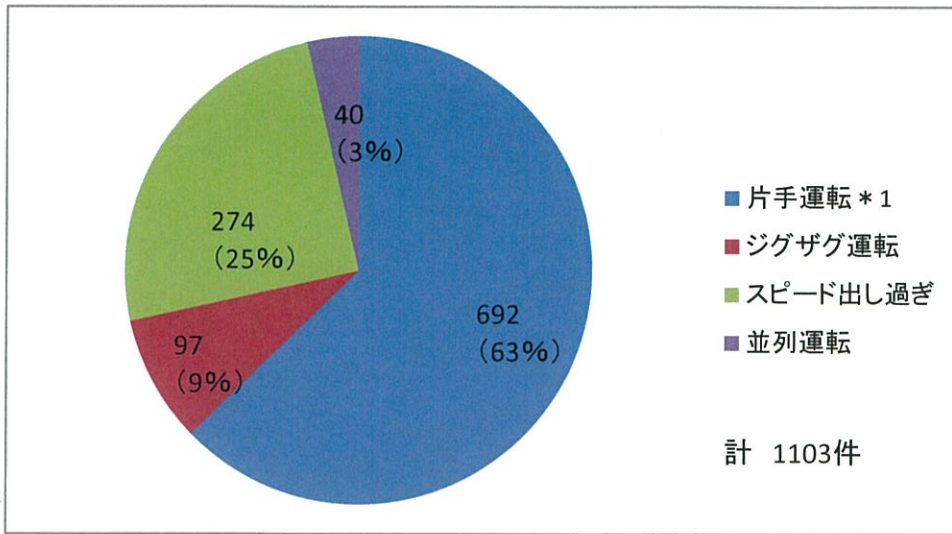


危険運転行為

調査期間 28年4月～29年3月

\* 1 比率内訳: 上り坂456・下り坂45

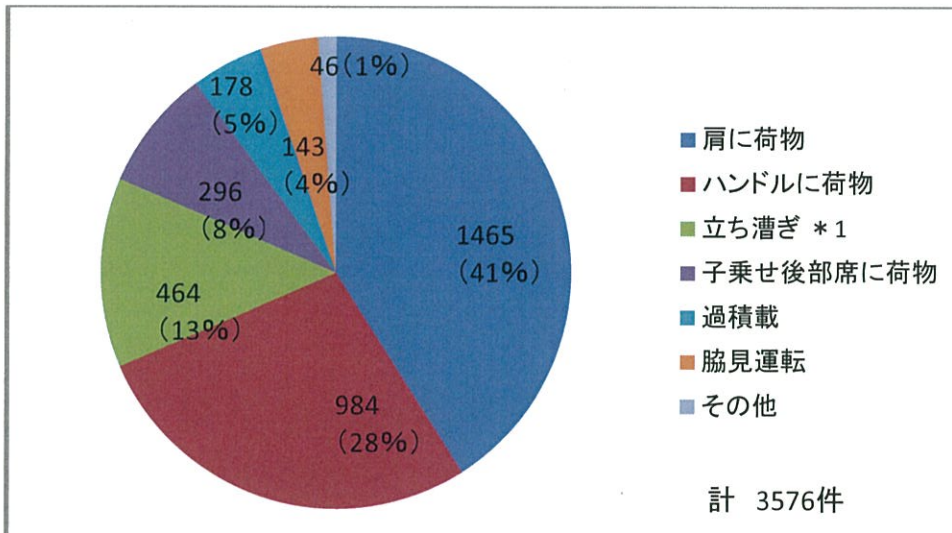




違反運転行為  
(歩道上)

調査期間 28年4月～29年3月

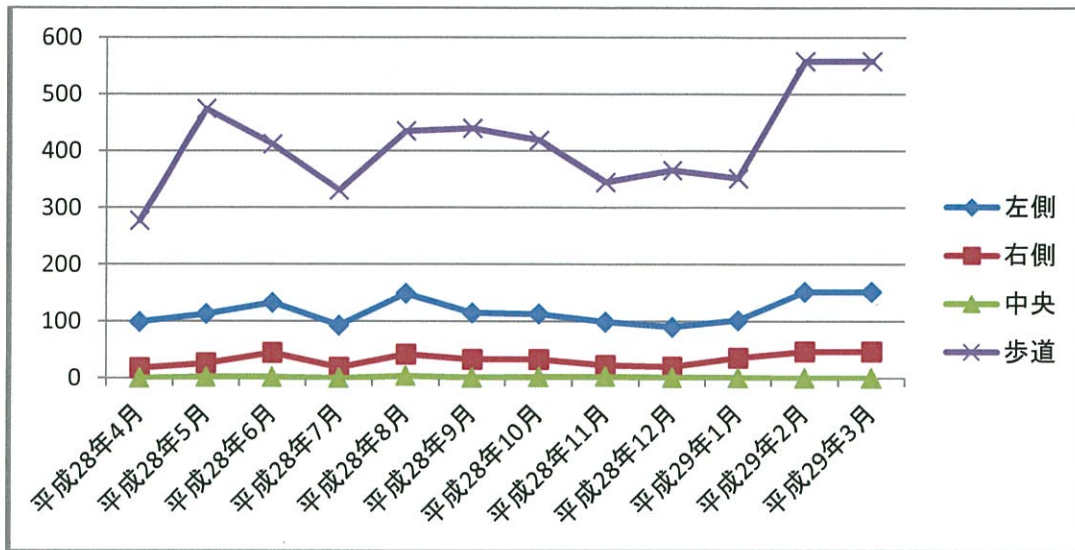
\* 1 内102件 携帯電話を使用中の運転



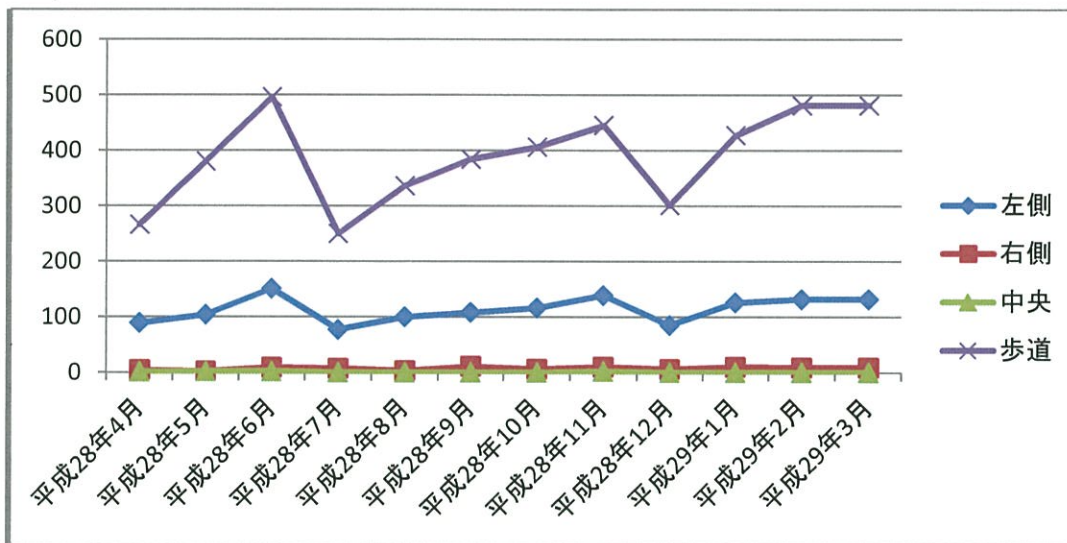
危険運転行為  
(歩道上)

調査期間 28年4月～29年3月

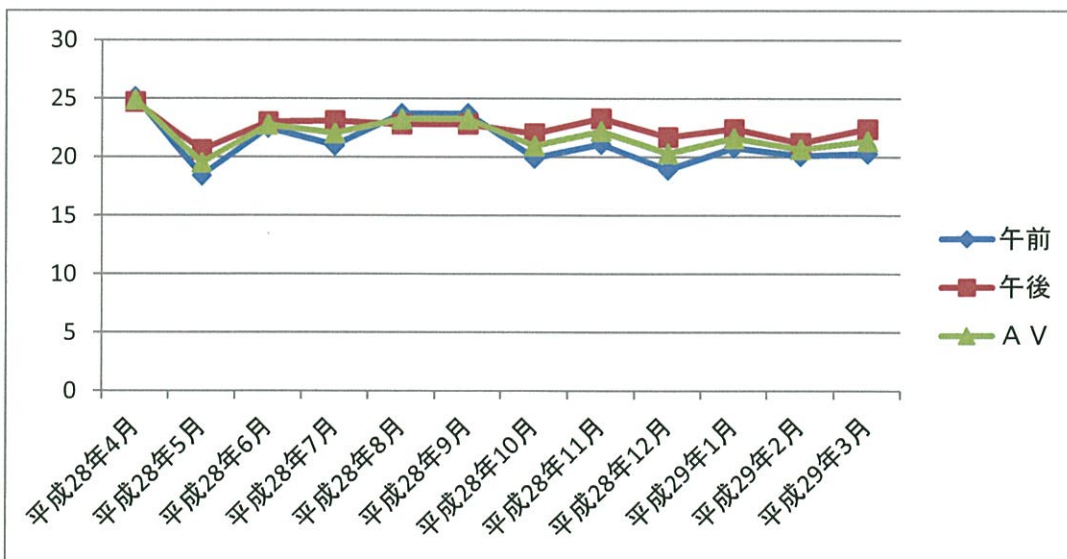
\* 1 比率内訳: 上り坂429・下り坂35



走行空間 午前 (台数)



走行空間 午後 (台数)



車道左側走行率 (%)





平成28年度総括版  
自転車利用実態定点調査報告（B地点）

平成29年5月

（一財）日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成28年4月～平成29年3月(毎月下旬の任意の1日)  
[午前]9:00～10:00

調査場所 ・ 白金幼稚園前（庭園美術館西交差点(首都高速目黒線直下)から70m程の上り坂)

概要 ・ 調査対象(車道線:目黒通り上り4車線及び歩道:幅員3.1m  
[一部歩道橋橋脚部分1.5mあり])  
調査対象外(反対側上り歩道)



上り線車道	歩道					← }	対象外 対象 エリア
	←直進・右折レーン						
	←直進レーン						
	←左折レーン						
	←左折レーン						
	歩道		↑				
			白金幼稚園				

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態調査票

No.	走行空間			車種	雨天	危険運転行為				
	歩道	車道	歩道			車道中央	歩道	車道	歩道	車道
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										

調査日時	平成 年 月 日
調査時間	時 分

<調査票>

[総括]

平成 28 年度 (平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月分の 12 ヶ月間)の総括として、以下の項目について、報告します。

◎走行空間においては、車道左側走行率は、25%であり、また、車道中央走行率は、22%で、全般に歩道を通行する自転車が多く、全体の 5 割強を占めている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)の総数は、車道中央走行(199 件)・肩に荷物(150 件)・ハンドルに荷物(37 件)・片手運転(25 件)・立ち漕ぎ(23 件)・過積載(19 件)・脇見運転(15 件)等の順となっている。

自転車総合ビル前とのデータについて以下の項目について比較してみた。

・車道左側走行率

白金は、25%であり、総合ビル前の車道左側走行率は、21.5%であった。

白金は、総合ビル前と同程度の割合である。

#### ・車道中央走行率

白金幼稚園近辺の特殊性(\*1)から総合ビル前と比較して圧倒的に多く、全体の2割強を占めている。

対して総合ビル前は、僅か1%である。

\*1 車道中央走行が多い理由は、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から道路中央を走行していたが、4車線での中間(両隣が2車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。

#### ・子乗せ自転車

白金は、15%であり、総合ビル前は、25%であった。

白金は、総合ビル前の6割の水準であり、総合ビル前と比較して、幼稚園等の保育施設が、1箇所しか存在していないことが低水準の要因と考慮される。

#### ・電動自転車

白金は、27%であり、総合ビル前は、39%であった。

白金は、総合ビル前の約7割の水準であるが、全体の2割強を占める車道中央走行者が、1台も電動自転車を使用していないことが、電動車の使用率の低下の要因となっている。

#### ・危険運転行為

(違反行為を含む)

白金の[車道中央走行・肩に荷物・ハンドルに荷物等]に対し、総合ビル前では[肩に荷物・ハンドルに荷物・片手運転等]と、共通項目は、肩に荷物・ハンドルに荷物となっている。

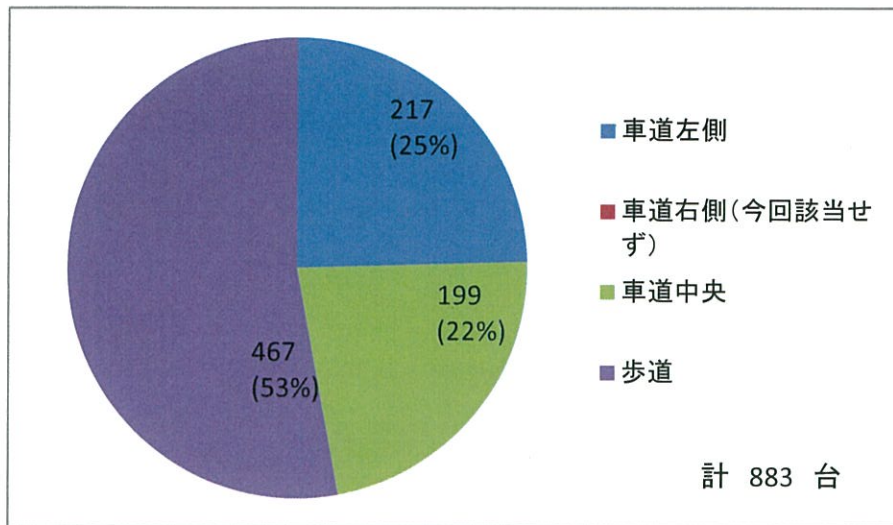
なお、「車道中央走行・肩に荷物」の2項目だけで、全体の7割強を占める形となった。(危険防止等の観点から籠の装備や荷台に装着等の必要性がある)

今回の白金地区は、総合ビル前で行っている定点調査に対して、反対地点では、どのようなデータ(同様か相違か)が得られるかとして実施したものである。

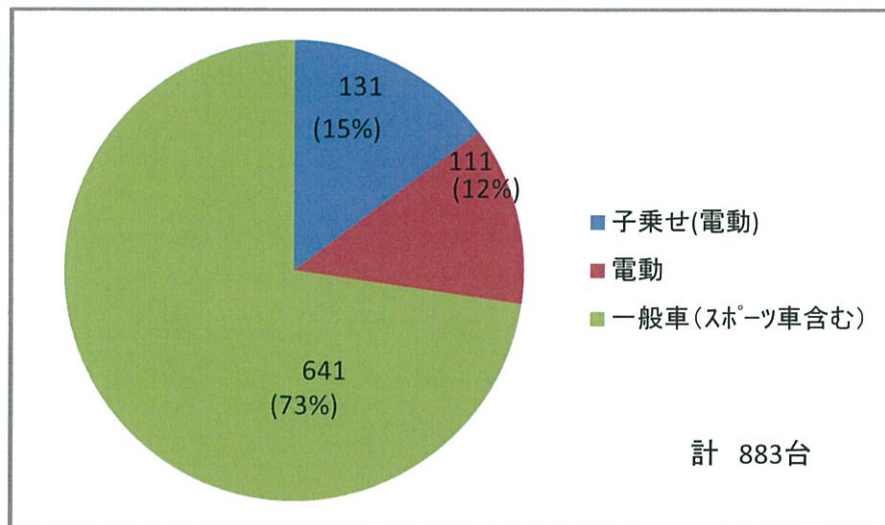
結果、上り車線と下り車線の違いもあり、各データについては、車道左側走行率は、同程度であるが、子乗せ自転車・電動自転車の比率は、6~7割程度の水準であった。

一方、車道中央走行率は、圧倒的な相違が生じた結果となった。

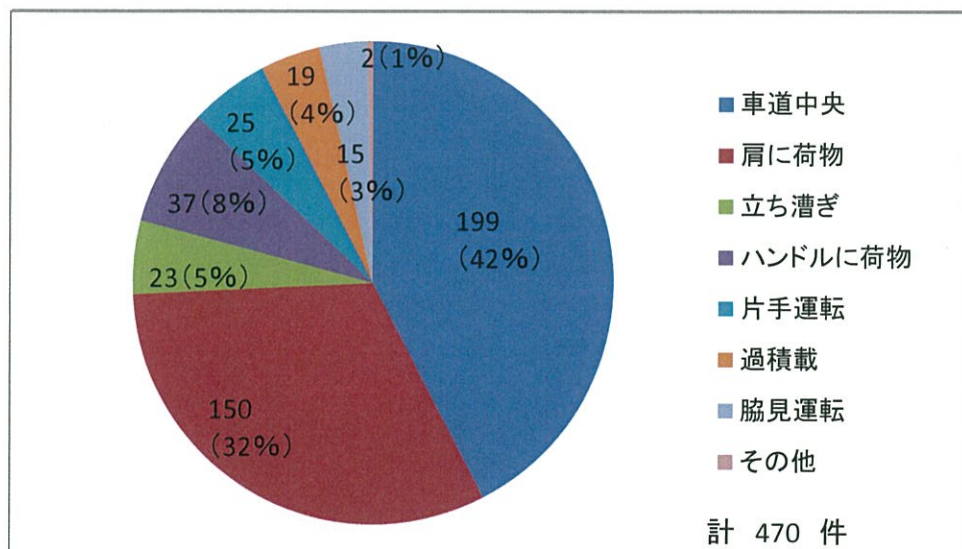




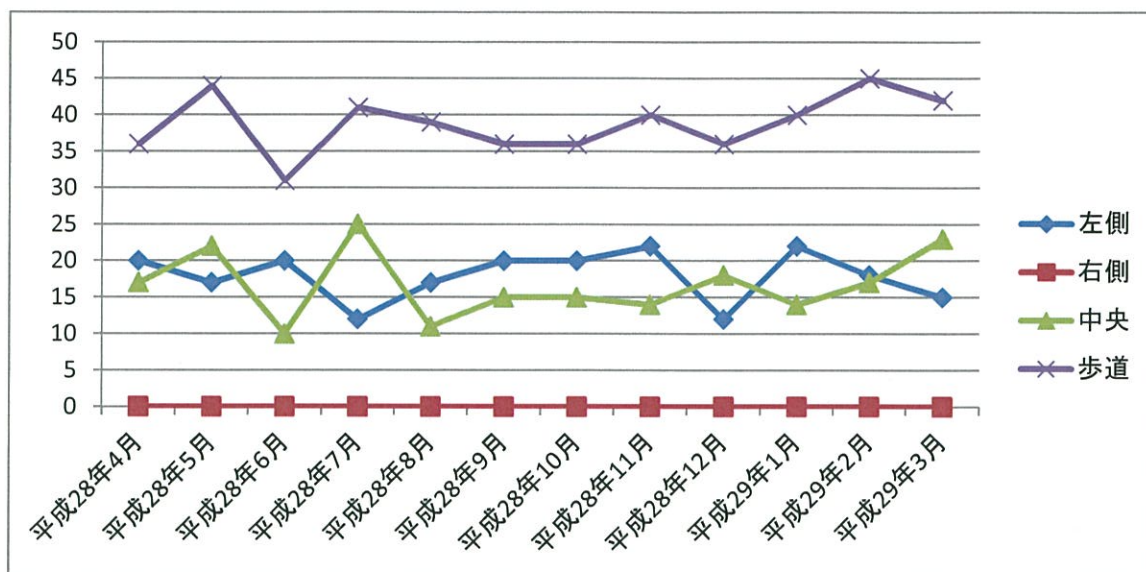
走行空間



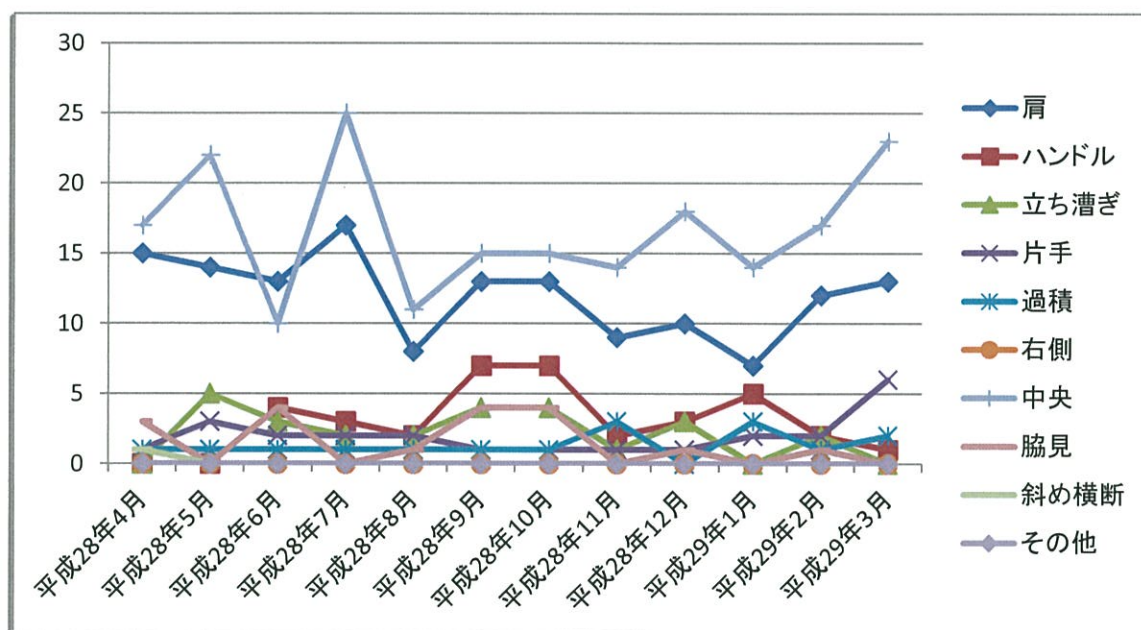
車種



危険運転行為 (違反行為を含む)



走行空間 (台)



危険運転行為 (違反行為を含む) (件数)

# 車道左側走行率 (%)

